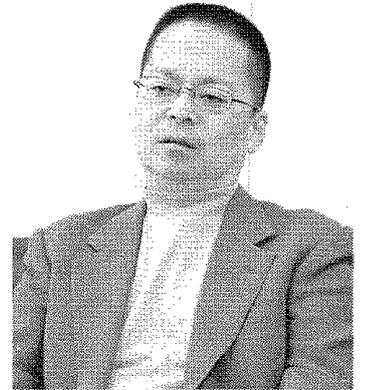


昨年の東日本大震災とその後の東京電力福島第1原発の事故発生以降、新聞などのメディアで「科学的」という用語が多く見られるようになった感がある。原発の安全性に関する科学的妥当性、あるいは原発建設予定地の決定の科学的根拠といった使用法である。

新潟国際情報大学  
情報文化学部教授

越智 敏夫



おち・としお 1961年愛媛県生まれ。立教大学法学部卒。慶応大学大学院政治学博士課程修了。96年、新潟国際情報大学講師。2006年に教授。専門は現代政治理論。

## 政策の科学的根拠

けれども重要政策についての議論はほとんどの場合、実はこの「科学的正しさ」をめぐる議論だと言ってもよい。例えば八ツ場ダムについての議論を見てみよう。「コンクリートから人へ」を謳った民主党は政権交代直後、このダム事業の見直しと中止を表明した。それに対して建設推進を主張する自民党の末松信介参議院議員は、2009年11月16日に参院に提出した質問主意書で、ダム事業が「科学的かつ合理的な根拠に基づかない不透明な方法で中止された点を批判している。こうした建設賛成派に対して、現在は反対派の中心として知られる民主党の前原誠司政調会長は昨年12月20日、「科学的に立証できない限り建設を推進

すべきではない」とする党内の国土交通部門会議の意見書を了承し、官房長官に党の方針として申し入れている。

つまりダム建設に賛成、反対の双方が「科学的根拠」によって自らの主張を正当化しようとしているのである。これは他の重要争点でも同様である。例えばTPPが国内の農業に与える影響、あるいは社会保障と税の一体改革といった争点でも、賛成反対の両派が各自の「科学的根拠」や「合理的説明」に基づいた意見を表明する。

問題はその両者の科学的意見の優劣を科学的に決定することが不可能なということである。ダム建設推進が正しいとする科学者もいれば、中止すべきだという科学者も存在する。科学的真理と社会的判断は別種のものだからだ。一方が「本物」の科学者で、他方は「偽物」だとするわけにもいかないだろう。

さらには社会内の争点を科学的に判断することは、巨たな官

# 最後は国民が判断を

的観点からのみ判断することに問題がある。もしそれを強行しようとするれば、実際には社会的権威を有し、自説の根拠をより多く示すことができる集団の判断だけが「科学的」「合理的」とされることになる。

この問題は切実なはずだ。科学的なデータや検証はあくまでも材料であり、最終的にはそれをもとに主権者である国民が政治的に判断するしかない。そしてその政治的な判断とは、判断を下した人たちが責任を取るということだ。これもまた新潟が経験してきたことではないか。

住民投票によって原発建設を拒否した旧巻町の人たちは現在の福島第1原発の惨状を見て、心の底から安堵しているかもしれない。しかしそれと同時に、阿賀野川流域の水俣病患者認定をめぐる「科学的基準」や、柏崎刈羽原発のプルサーマル実施の「科学的合理性」に関する議論を経験してきた新潟県では、

どちらにしても自分たちで下した判断である。その結果は自分たちが受けとめるしかない。しかしそういう経験こそが民主主義を深め、社会をより良いものにしていく。手間もかかるし時間もかかる。痛い目にもあうだろう。けれどもそれは自分の決定だけを科学的だとして他の意見を否定するより、はるかに真摯な社会変革への姿勢だ。

問題はその両者の科学的意見の優劣を科学的に決定することが不可能なということである。ダム建設推進が正しいとする科学者もいれば、中止すべきだという科学者も存在する。科学的真理と社会的判断は別種のものだからだ。一方が「本物」の科学者で、他方は「偽物」だとするわけにもいかないだろう。

さらには社会内の争点を科学的に判断することは、巨たな官

的観点からのみ判断することに問題がある。もしそれを強行しようとするれば、実際には社会的権威を有し、自説の根拠をより多く示すことができる集団の判断だけが「科学的」「合理的」とされることになる。

この問題は切実なはずだ。科学的なデータや検証はあくまでも材料であり、最終的にはそれをもとに主権者である国民が政治的に判断するしかない。そしてその政治的な判断とは、判断を下した人たちが責任を取るということだ。これもまた新潟が経験してきたことではないか。

住民投票によって原発建設を拒否した旧巻町の人たちは現在の福島第1原発の惨状を見て、心の底から安堵しているかもしれない。しかしそれと同時に、阿賀野川流域の水俣病患者認定をめぐる「科学的基準」や、柏崎刈羽原発のプルサーマル実施の「科学的合理性」に関する議論を経験してきた新潟県では、

どちらにしても自分たちで下した判断である。その結果は自分たちが受けとめるしかない。しかしそういう経験こそが民主主義を深め、社会をより良いものにしていく。手間もかかるし時間もかかる。痛い目にもあうだろう。けれどもそれは自分の決定だけを科学的だとして他の意見を否定するより、はるかに真摯な社会変革への姿勢だ。

